京都産業大学　教育支援研究開発センターニュース

CERADES News

セラデス　ニュース

むすんで、うみだす。
京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

vol.30
Mar. 2025

F工房15周年交流イベント
～ふりかえり＆語りあいの集い～

3つのポリシー点検・見直しのための学部教学マネジメント研修会
―カリキュラム・ツリー作成のワークショップ―

F工房が2009年に開設され2024年で15年となったことから、F工房の立ち上げに尽力された教職員、その後のF工房と学生ファシリテータの発展に関わった卒業生・教職員が現役の学ファシと15年間の歩みを振り返りながら今後の展望や可能性を語り合うことを趣旨として開催した、「F工房15周年交流イベント ～ふりかえり&語りあいの集い」について報告いたします。

また、本号では、3つのポリシーへの理解を深め、カリキュラム改善、そして学修者本位の教育確立に繋げるための機会として開催した「3つのポリシー点検・見直しのための学部教学マネジメント研修会―カリキュラム・ツリー作成のワークショップ―」についても報告いたします。

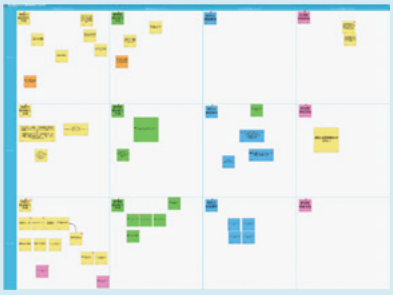
企画委員会にて

「学生の声をどのように聞き教育実践につなげるか」をテーマにワークショップを実施しました!

教育支援研究開発センターには、各種研修会の企画立案および運営、授業手法の開発・改善の支援と推進、学生の主体的な学びを促進するための支援体制・環境整備などの役割を担う「企画委員会」を設置しています。2024（令和6）年12月4日（水）に開催した企画委員会では、「学生の声をどのように聞き教育実践につなげるか」をテーマに、学内の授業において、教員が学生の意見をどのようにきき、授業の工夫・改善につなげているか、実践事例などの情報や意見を共有しあうことを目的にワークショップを実施しました。

当日は、佐藤教育支援研究開発センター長がレゴでタワーを作るというアイスブレイクを行いました。各参加者がどういう意図でタワーを作ったのか各グループで説明していただき、和やかな雰囲気でワークショップに進みました。

ワークショップでは、3つのグループに分かれ、オンラインツールのStormbaordに、「学生の声をどのようにきくか」、「どのように教育実践につなげるか」について、「すでに行っていること」と「新たにできること」をそれぞれ意見を出し合いました。



意見を出し合ったStormbaordの画面

Contents

p2 〈F工房の活動〉
・F工房15周年交流イベント
～ふりかえり&語りあいの集い～　開催報告

p4 〈FD/SD活動の推進〉
・3つのポリシー点検・見直しのための
学部教学マネジメント研修会
―カリキュラム・ツリー作成のワークショップ―　開催報告

CERADES Newsは、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン製作している刊行物です。
CERADES（セラデス）は、教育支援研究開発センターの英語名称Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

開催報告

F工房15周年交流イベント
～ふりかえり＆語りあいの集い～

2024（令和6）年9月28日（土）、教育支援研究開発センターF工房は、「F工房15周年交流イベント～ふりかえり&語りあいの集い」を開催し、卒業生・現役の学生ファシリテータ（以下、学ファシ）、教職員を合わせて44名の方にご参加いただきました。当日は、7名の学ファシが職員と共に運営を担当し、うち2名はイベント全体の様子を可視化する手法「グラフィックレコーディング」の描き手としても関わりました。

本イベントは、F工房の立ち上げに尽力された教職員、その後のF工房と学ファシの発展に関わった卒業生・教職員が集い、現役の学ファシと15年間の歩みを振り返りながら今後の展望や可能性を語り合うことを趣旨として開催しました。

Fちゃん（学ファシキャラクター15周年Ver.）

01 当日のプログラム Program

01 オープニング

吉田裕之教育支援研究開発センター長からの開会挨拶に続き、F工房コーディネーター大島和美より参加者に対して、「今日、この場で、学ファシ活動で大切にしてきたモノ・コトを収穫するとしたらどんなことを話したいですか?また、今日、この場で収穫されたモノ・コトを新たな種として撒くとしたら、どんなことが起こるでしょうか?」という問いを投げかけました。その後、現役学ファシの進行によりアイスブレイクとしてテーブルごとに「フリップ自己紹介」を行い、会場は少しずつ打ち解けた雰囲気になりました。

02 F工房＆学ファシのこれまでとこれから

大島より概要を説明したあと、F工房立ち上げの経緯について、学生支援GPの申請に関わられた本学名誉教授の鬼塚哲郎先生と職員の棚原由香利さんより申請当時の裏話など貴重なエピソードをまじえてお話しいただきました。多くの教職員が対話と協働を重ねてF工房設立に至ったこと、その中で実感された大学教育の現場でファシリテーションを取り入れることの大切さについて、教員・職員それぞれの目線で語られました。続いて、学ファシ活動の起こりについて、2005年の開講初年度に「キャリア・Re-デザインI（当時）」を受講し、翌年度より同科目に学生の立場でファシリテータとして関わられた中西勝彦氏（2009年3月卒業／現在は京都文教大学助教）より、学生が主体的に始めた活動が学ファシ誕生の契機となったことをお話しいただきました。対話や協働を通して他者と深く関わる楽しさに気づいたことをきっかけに、自身の可能性が広がっていったという、かつての学生の実体験が生き生きと語られ、その場にいた卒業生や現役学ファシの多くが共感し、深く頷いていました。

次に、大島より現在のF工房および学ファシ活動について、取り組みの様子や、学ファシと関わり、協働するなかで大切にしている想いや願いについて共有しました。また、F工房は開設当初より変わることなくファシリテーションを取り入れた支援型教育を全学に広げる拠点として、様々な取り組みを展開していること等を紹介しました。現役学ファシの4年次生からは研修をサポートするうえで大切にしたいと思っていることや後輩を巻き込みながら自分たちが成長できる場をつくっていきたいこと等が語られました。

03 グループでの語りあい

現役学ファシを交えてまずは、「F工房&学ファシがこれまで産み出してきたもの」をテーマに参加者自身の学ファシ活動がどのようなものであったか、F工房は自身にとってどのような存在であったかを振り返ったあとグループで共有しました。続いて、「F工房&学ファシがこれから産み出していけるもの／産み出していってほしいもの」をテーマに、これからの展望について語り合いました。

ワークの最後に、グループごとに作成した模造紙を見せながら、語り合ったことを全体共有する時間を設けました。そこでは、「F工房&学ファシがこれまで産み出してきたもの」について、「対話」、「安心・安全」、「人とのつながり」、「多様性」、「チャレンジ」のようなワードが挙げられ、F工房や学ファシがこれまで大切にしてきた主体性を引き出すファシリテータの姿がそこには確かにありました。また、「F工房&学ファシがこれから産み出していけるもの／産み出していってほしいもの」については、一人では産み出せないものを他者との協働によってつくれる機会や学外にもファシリテーションを広げていってほしい等、社会とのつながりを期待する思いが共有されました。

04 クロージング

2時間のプログラムはあっという間で、話が尽きないグループも多数見られました。会の終盤には、木の葉型のカードに「あなたにとってF工房&学ファシとは?」というテーマで参加者の皆さんに一言メッセージをかいていただき、模造紙にまとめてツリーを完成させました。鬼塚先生より、本イベントでの語り合いのなかで、「日ごろの職場では対話が足りていない、何とかしたい」という声が多数聞かれたことを受けて、「今日この場で起こったことや感じたことをそれぞれの日常へ持ち帰りましょう」と呼びかけられ、また、「参加者にとってF工房が物理的なものを超えた居場所になっていることを実感した」と総括され、今後も継続的にこのようなイベントを開催することや再会への期待を述べられ、閉会しました。

参加者の一言メッセージで彩られたツリー

02 参加者アンケート Survey

感想

脈々と受け継がれている文化、多様なメンバーが集まる中で育まれるそれぞれのファシリテーションのスタイルが垣間見えてとても有意義だった。（卒業生）

先輩方のお話が非常に興味深く聞けました。これまで関わってきた人たちが学ファシという文化を築き、居場所となっていることを実感し、改めて学ファシっていいなと思える機会となりました。（学ファシ）

学ファシの経験が社会で活かされている、活かしていると思うこと（卒業生）

会社においては自身の部署のチームビルディング、またプライベートの活動にも活かすことができています。

アクティブリスニングなどを普段から行うことで、他者と良好な関係を築ける。

仕事でチームメンバーと話をする際、対話の際はまずは否定せず受け止めることを心がけている。このことで、何を話しても良いという文化がチームメンバーに浸透しており、良い職場環境が作れていると思う。

staff interview

今回のイベントを運営してみてどうでしたか…？

みゅうさん 表現の仕方は様々でしたが、大切だと思っているマインドの軸は全員共通だと感じました。やり取りの中で、現在学生である私たちも、社会人として経験を積まれた方々も、それぞれのフィールドで自分なりの学ファシマインドを持って活動していることがわかりました。このような直接言葉を交わすことができる機会が今後も続いてほしいと感じたとともに、私自身も引き続き自分なりのファシリテータとしての在り方を考え続けていきたいです。

くるみんさん 私は、今回のイベントで初めて、グラフィックレコーディングを行いました。当日を迎えるにあたって、みゅうさんに必要な基礎知識を教えていただきましたが、本番を前にするととても緊張していました。活動している中で、グラフィックレコーディングはチームプレーな部分も大きいと感じました。実際に今回、みゅうさんのサポートなしでは仕上げることができなかったと思います。周りを見てサポートをする力を、経験を積みながら学び、さらに良いグラフィックレコーディングを行っていきたいです。

現役学ファシが描いたイベントのグラフィックレコーディング

03 学ファシスタッフ Staff

重野 聖空（せいあ）さん
経済学部3年次

大江 胡桃（くるみん）さん
理学部2年次

宮本 康太郎（みやもん）さん
経済学部4年次

中岡 駿一（しゅんちゃん）さん
経済学部4年次

落合倫世（とも）さん
現代社会学部3年次

渡邊 志織（しおぽん）さん
現代社会学部4年次

北浦 実優（みゅう）さん
現代社会学部4年次

※括弧は学ファシネーム

SNS公式アカウント

Support Program

F工房では、学生の主体的な学びを支援するために、「ファシリテーション」を取り入れた授業運営手法について専門スタッフが伴走しながら、教員一人ひとりの授業スタイルにあうアクティブラーニングの形を模索するサポートをいたします。授業の目的や達成目標、先生の授業への思いなどをお聞きしながら、学生自身が学びを自分ごととして捉え、話し合い学び合う場のデザインや授業運営について一緒に考え、アイディアを提案いたします。F工房の専門スタッフだけではなく、専門的な研修を受けた学生ファシリテータの派遣も可能です。同じ学生がファシリテータとして加わることで、学生同士の新たな視点の発見が期待できます。ぜひF工房にご相談ください!

3つのポリシー点検・見直しのための学部教学マネジメント研修会 ―カリキュラム・ツリー作成のワークショップ―開催

佐藤　浩章 先生

（東京大学 大学総合教育研究センター TL（Teaching & Learning）推進部門 部門長）

2025（令和7）年2月14日（金）、3つのポリシー点検・見直しのための学部教学マネジメント研修会―カリキュラム・ツリー作成のワークショップ―を開催しました。本研修会では、学部長をはじめとする学部運営を担う教職員を対象として、3つのポリシーへの理解を深め、カリキュラム改善、そして学修者本位の教育確立につなげるための機会とすることを目的に、東京大学大学総合教育研究センター TL（Teaching & Learning）推進部門部門長・教授である佐藤 浩章先生をお招きしカリキュラム・ツリー作成のワークショップを行いました。当日は、66名が参加しました。

在間　敬子　学長から開会挨拶ののち、佐藤　賢一　教育支援研究開発センター長から開催趣旨説明があり、3つのポイントについてお話がありました。1つ目は3つのポリシーの理解、2つ目はカリキュラムツリーの作成を通じて、現行カリキュラムの強みと課題を洗い出すこと、3つ目は学生や受験生にとって魅力的で説得力のあるカリキュラムツリーを作成することの説明がありました。

ワークショップ概要

講師の佐藤浩章先生が行うレクチャーに基づき、参加者が議論しながら、ワークを行う形で進行しました。

佐藤先生は、カリキュラム・ツリーが、受験生（保護者）や高校教員向けのプレゼン・マーケティングツールとなること、学科教員にとっては、カリキュラムの現状と課題を把握する教学マネジメントツールになること、学生にとっては、今受講している科目が全体の科目の中でどのように位置づけられるかというメタ認知が可能となる学習支援ツールにもなり得ることを説明されました。

ワークでは、まず初めに、高校生・保護者・高校教員らに向けて、各学部・学科のカリキュラムの特徴としてアピールしたい点を3つ掲げる作業を行いました。次に、科目の内容面、順序面での関係を意識し、授業科目が記載された付箋を模造紙に貼り付けるという、カリキュラム・ツリーの作成に取り組みました。その際、カリキュラムの特徴が、模造紙上に表現できているかを点検し、議論を行いました。

その後、会場に各学部・学科のカリキュラム・ツリーが描かれた模造紙を掲示し、参加者が他学部・他学科のカリキュラム・ツリーを見て回るという「ギャラリーツアー」を行いました。ここでは、他学部・他学科のカリキュラム・ツリーを見て、「受験生として、魅力的か?」や「高校教員として、受験を勧めたいか?」、「現役の学生として、学習意欲が高まるか?」など、様々な観点から評価し、コメントをしました。

コメントの中には、ポジティブなものもある中「DPとの関連がわかりにくい」、「科目間の関係がわかりにくい」、「進路とのつながりがイメージしにくい」などの重要な指摘も見受けられました。

ギャラリーツアー後は、各学部・学科で再度集まり、他学部の参加者からのコメントをひとつずつ確認しました。そして、カリキュラム及びその見せ方を改善・ブラッシュアップするにはどうすればよいかについて議論を深め、対応策を検討しました。

参加した教職員の声

- 講師のレクチャーが素晴らしい内容だった
- 学生に伝わるようにカリキュラムを説明する必要性を改めて感じた
- 他学部のカリキュラムの様子が分かり、自学部のカリキュラムを今までより客観的に見るきっかけとなった

CERADES News Vol.30　2025年3月発行
編集／発行　　京都産業大学教育支援研究開発センター
〒603-8555　京都市北区上賀茂本山　Tel：(075)705-1729
e-mail：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp　URL：http://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/index.html